

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	北砂5-16-13 グリーンガーデン1階
施設名	小鳩スマート保育所 北砂

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

見立て遊び・つもり遊び

〈テーマの設定理由〉

身近な大人の模倣をしたり園児同士でシチュエーションを考えたりと、自身の経験を基に再現して見立て遊びやつもり遊びを楽しむ様子が活発に見受けられるようになってきている。多種多様な素材や玩具を組み合わせる自分なりの世界観を作り込み、より没頭して遊べる保育を展開したいと考え、本テーマを設定した。

2 活動スケジュール

絵本や図鑑、身近な大人等とのかかわりから、物事のイメージ（色・形・音等）を自由に膨らませて自分なりの世界観をつくることを楽しむ。身の回りの素材を組み合わせイメージしているものを再現したり、動物やキャラクター、身近な大人になったつもりで遊びを展開したりすることの面白さを味わいながら活動する。

- 1月 新しい絵本や図鑑に親しみ、身近な素材を使って再現することを楽しむ
- 2月 キッチンや冷蔵庫などの家具を用いたおままごとやおうちごっこを楽しむ
絵本や図鑑から発展して、動物のなりきり遊びを楽しむ

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

- ・恐竜、動物、食材を題材にした絵本や図鑑
- ・アイクリップ ・ボタンかけ玩具 ・調味料の容器
- ・キッチン、食器棚、レンジ、冷蔵庫、ちゃぶ台、クッションフロアを組み合わせたおうちコーナー
- ・キャラクターモチーフのエプロン ・おままごとセット（食材、食器） ・食器洗い用スポンジ

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

①恐竜や動物を好んでいる園児が新しい絵本や図鑑があることに気付き、没頭して繰り返し読み込む。その姿を見て他の園児も一緒になって興味を示し、どんな特徴のある動物なのか詳しい園児に尋ねたり想像したりしながら楽しむ。身近な玩具で恐竜を再現し「がー」と保育室内を練り歩いて園児や先生の反応を面白がっている。

②ハンガーラックに新しいエプロンがあることに気付き、「プリンセスのおうちでごはんつくる」と着替えて遊び始める。料理のリクエストをしてお店屋さんごっこに発展したり、母や姉、赤ちゃんと役割を話し合ってから家族になったつもりで絵本の読み聞かせをして過ごしたりする。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

①「アンキロサウルスってしっぽがハンマーみたいでしょ！」というA児に、「ハンマーってなに？」と他児が集まっていた。「トントンっておうちつくったりするやつ」「（おまごとのおうちコーナーを指さして）このおうちとかつくれる？」とふたつの遊びが交わっていた。スピノサウルスとアンキロサウルスに強く興味のある様子で、ボタンかけの玩具を試行錯誤して体につけていた。「がー」と言いながらおうちコーナーに近づくと、「ねこちゃんおさんぽおそかったねー」とB児に声をかけられる。引き続き「がー」と言うものの、毛づくろいをして猫にもなりきる様子があった。

②A児が「もう、ちょっとおかたづけしてよねー」と言いながら皿洗いの真似をしている。保育者が「お母さん、お手伝いする？」と声をかけると、「おさらかわいたらすぐいくからー」と洗った後の皿をひっくり返して片づけている。赤ちゃん役のB児が「もうねむいからおかたづけできなーい」と寝転がると、「きょうりゅうさんならやるけどなー」とA児がやる気の出るような言葉を考えて声をかけていた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

・家具を用いて空間を仕切り、ままごとコーナーをひとつの小さな家として環境を整備すると、自然と同じ空間に集まって遊ぶようになった。見たり聞いたり経験したことを自分なりに再現しながら遊ぶときには、より実際に即した環境を作るとイメージしやすくなることが分かった。

・保育者が進んで遊びに参加しなくても、園児同士のかかわりによってイメージが豊かに膨らんでいく過程を知ることができた。保育者が見守りや観察に徹してみると、遊びが発展していった経過や子ども同士の関係性の変化に気付くことができた。